

第15回沖縄県教育委員会会議（定例会）

1 日時 平成22年10月20日 15時10分～17時04分

2 場所 教育庁第一会議室

3 出席者

委員	比嘉 委員 (委員長) 鎌田 委員 安次嶺 委員 中野 委員 新垣 委員 金武 委員 (教育長)	(欠席委員)
教育 庁	統括監等	教育指導統括監、教育管理統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長 財務課長 施設課長 福利課長、 県立学校教育課長 義務教育課長 保健体育課長、 生涯学習振興課長 文化課長 全国高校総体推進課副参事
	職務のため 出席した者	(事務局) 総務課総務班班長、同班主査、 県立学校教育課人事管理監、同課人事班主幹、同班主査、 同課特別支援教育班主任指導主事、同班指導主事、 義務教育課人事管理監、同課人事班主任、 文化課副参事
4 傍聴した者 <p style="text-align: center;">記者3人 / その他1人</p>		

平成22年第15回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:10）

委員長	ただ今から平成22年第15回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は鎌田委員にお願いします。
鎌田委員	はい。承知しました。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	（教育長報告） ・平成22年第4回沖縄県議会（9月定例会）における質問・答弁概要について ・平成23年度公立学校管理職候補者選考試験最終合格者について ・平成23年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験最終合格者について ・第65回国民体育大会（ゆめ半島千葉国体）成績について
委員長	では、御質疑ございますか。
中野委員	県議会の主な質問事項の「(18)正規任用教員を増やすことについて」という質問に対する答弁の要点について聞きたい。大きな課題ではないかという気持ちもある。非正規の割合や今後の取組の考え方等があれば聞きたい。
教育長	文科省の発表で沖縄県は臨時的任用が17%台で、全国で1番高い率であるということで質問がございました。沖縄県は臨時的任用が多く、正規任用を増やしたいという趣旨の答弁をいたしました。
中野委員	私が資料で見た限りでは全国平均の倍ぐらいあるようだ。これは大きい、学力向上や、教職員のストレスに影響していないか、正規任用を増やす方法はないかと心が痛んだ。これは強く取り組めるように努力してほしい。
鎌田委員	県議会の主な質問事項「(13)幼保一元化の現状と今後の対応について」。今、就学前の幼児教育制度を大幅に変えようという動きが急ピッチで進んでいる。市町村が直接の管轄だが、どの県も県の福祉と教育の行政で各県の課題を整理している。まだ審議中の会議に問題提起するチャンスがあるが、本県ではどのように取り組む計画があるのか。
教育長	今、国が、こども園という形で、幼稚園と保育園を1つにした大きな制度を立ち上げて動こうとしております。現在、沖縄県ではほぼ全ての小学校に幼稚園が併設され、80%近くの幼児が幼稚園に通っております。私立の保育園等でも保育がなされていますが、それが1つになるということで、幼稚園の教諭はどうするのか、小学校併設の幼稚園はどうするのか、大きな課題で

	<p>す。福祉保健部で保育園をどういう形で検討するかということもありますので、今後の国の動きにどう対応していくか福祉保健部と私達で協議しようとして検討しているところです。</p>
委員長	<p>他にございますか。</p> <p>(しばし間があり)</p> <p>先日、幼保一元化について教育委員会と福祉保健部長で意見交換した。他県と全然違う特殊な歴史状況がある中で、全国一律の法律や補助金の流れになるとかなり厳しい状況になるのではないかと危機感が高まった。沖縄県が他県と何が違って、へき地・離島を抱え、財政基盤が脆弱な市町村が多い沖縄県で全国一律の幼保一元化をするとどういう問題が起こるか整理し、国への要望も含めて取り組む必要があると感じた。これから福祉保健部と連携を図るということだが、時間がないので、急ぎ取り組んでほしい。</p> <p>では、管理職候補者選考試験についての御質問ございますか。</p>
鎌田委員	<p>今年度の流れを数字で示してもらい、おおよそ人の数の動きは見える。管理職の選考基準について、今回の選考過程の中で、従来と違う点または課題として話し合われたことはあるか。</p>
教育長	<p>管理職候補者選考試験は従来どおり実施しており、特に変わった点はございません。</p>
鎌田委員	<p>具体的にどういう基準の下で、どういう審理状況があつてここまで来たかというプロセスを、もっと見えるように報告してもらえたらありがたい。</p>
中野委員	<p>「合格者の平均年齢」が気になる。小中高校で40代の校長はいるか。</p>
教育長	<p>合格者は何名かおります。</p>
中野委員	<p>文科省発行の教育委員会月報の今年のデータでは、沖縄県は「年齢制限していない」となっていた。これからの指導者、優秀な人材を育てる意味では40代でも出したらどうかと思う。合格できる人はたくさんいると思う。良きリーダーを育てる意味での校長等が誕生したらいいと思う。</p>
新垣委員	<p>教頭職になって何年したら校長試験が受けられるのか。</p>
県立課長	<p>3年です。</p>
委員長	<p>この合格者の中に懲戒処分歴のある人がいるか。</p>
教育長	<p>おります。</p>
委員長	<p>一度何か問題があつたら二度と道がないということではいけないと思うが、懲戒処分歴がある場合には、その状況については透明な議論が必要だと思う。教育委員会は、教育行政について教育長を指揮監督するというのが法律的な位置付けだと思う。人事に関しては最終的な任命の時しか、私達に法</p>

	<p>的な権限はないが、どのようにして良くしていったらいいのかについて教育委員会がもう少し関与できる方法はないかと思う。というのは、学校現場は今大変だ。子供達の健全育成、学力向上、モンスターペアレンツの問題があり、先生方をいかに守っていくかもとても重要で、それは管理職の資質にかかっている。校長、教頭は、上意下達の管理能力の優れている人ということではなく、学校を経営するのだから、人望があつて、先生方が頑張れる職場作り、学校の雰囲気作り、地域との連携、そういうことができる人材が必要だ。マネジメント、経営の能力が求められていると思う。そういう管理職をどのように登用するか、もっとみんなで知恵を出し合ってもいいと思う。受験資格、点数の配分、判定基準、そして一次試験・二次試験合格までの一連の流れの中で、どこでどう客観的に議論されて、どういう基準で選定しているのか教えてほしい。どうやってマネジメント能力の高い人達を登用していくのかも検討してほしい。そのため、他県の管理職選考のいろんな事例を調べてほしい。他県が、この難しい社会環境の中でどのように管理職を登用し、育成しているのか、沖縄県で取り入れられるものはないか議論できる場を作してほしい。</p>
<p>教育長</p>	<p>懲戒を受けた人が受験できないという規則はありませんので、教員試験も管理職試験も受験はできます。それを受けて選考委員会でどう判断するかということはありません。管理職試験は、管理職にするものではなく、教育委員会へ推薦する候補者を選ぶ資料を得るためのものです。ですから、他県では管理職試験をしていないところ、教育長案を出しているところもあります。沖縄県では、こういう形で候補者を選考し、私がこれを基に選考して教育委員会の皆様に推薦し、承認してもらいます。その中で経歴等が出てきますので、そこで議論していただけたらと思います。また、選考にあたっては、その先生をよく知っている各学校長の推薦があります。それを受けて各市町村教育委員会が推薦し、教育事務所長も推薦します。私達としてはそういうフィルターを通してやってきており、選考試験について外部からいろんな形の指摘もまだありませんので、こういう形で進めていきたいと思っております。そして、しっかりした管理職ができるように、教育委員会にも推薦してまいりたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>今お願いしているのは、より改善できる方法がないか他県の調査をして検討してほしいということ。客観性をどう担保するのかについては、ブラックボックスを作らないことが大事だ。今は、いろんな人が関わるにしてもいずれも内部だ。それを、誰が見ても透明で、こういうことでこういう人が登用された、あるいは合格したと言える状況を作っていくことが大切だと思う。今投げかけたのは、それに対して今どうこうではなく、今後のことを考えて</p>

	調査してほしいということ。内々で全てが決まっていくということではなく、より客観性をもった方法がないか、他県の取組を見てみてはどうか。
教育長	このことにつきましては、教育委員会の皆様に、管理職選考試験をやる前に、選考委員会という形でこういう方針でこういうふうにやりますと説明しております。そして、選考委員会という形でしっかりとやってきております。教員採用試験も同じですが、外部からいろんな形で指摘があったときは、改善してきております。ですから改善しないということではなく、問題があればそれなりにしっかりと対応していきたいと思っております。
委員長	もう一回言うが、法律上、私達は指揮監督をする立場にいる。そして今、調査してほしいとお願いした。他県の事例も合わせて検討をしてもらえないかと投げかけた。今の教育長はそれをしないという答えか。
教育長	そうではありません。委員長がおっしゃる内容が漠然として調査の具体的な内容がわからないものですから。今でも例えば教員採用試験で個々の問題があれば、他県に問い合わせしてやっております。これについても具体的な指摘がありましたら受けとめてしっかりとやってまいりたいと思っております。
委員長	受験資格の基準、懲戒処分歴がある場合に受験できるのは何年後からか、点数配分、判定基準はどうなっているのか。また、合格までの一連の流れの中でどのような形で客観性を作っているのか、内部の委員会だけなのか、外部からチェックが入っているのか。また、決定までのフローはどうなっているのか、他県の調査をしてもらえないか、そしてその中で沖縄県が改善できることがあったら検討してはどうか。こういうことを、まずは調べてほしいとお願いをした。
教育長	管理職の選考については、教育長が教育委員会に推薦する候補者を選考するための一つの手だてです。本県の教育としてどうするかは私に任されておりました、そういうことを受けとめてやっているつもりです。特に何か問題点、懲戒に関しては今申し上げたとおり調べて欲しいということであれば、これについてしっかりと調べていきたいと思っております。
安次嶺委員	教育委員会で社会的に問題になった事例、例えば大分県は、選考の仕方等がどういう状況だったのかと思う。試験をするところもあれば全くしないところもあるということだが、例えばどの県でどのようにやっているのか、その県に何か問題があったのか等、私達も知りたい。例えば、大分はその後何か変えたのか。問題が起こった県もあるので、その事例も参考にしながら、沖縄県はどうか。これまで沖縄では不祥事はなかったのも、大きな問題はないかもしれないが、それがいつ起こるかわからない、そういう点ではよその事例がどうなっているかある程度知りたい。
教育長	はい、他県はどんな状況でやっているか調べたいと思っております。

委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>教員採用試験の最終合格者について御意見、御質疑ございますか。</p>
鎌田委員	<p>これだけ志願者があって最終合格者が5.4%。沖縄県で教員になるのは本当に至難の業だ。今年も合格できなかった方々がどう動いて教育現場あるいはそうでないところに散っていくのか気になる。教師になりたいという本当に強い希望を持った人が何年も挑戦している現実もある。他県と提携して、沖縄県で1次合格した人が、他県での2次試験受験資格を得られる県が何県かあるという話が以前あったが、それを今後広げていく検討はあるか。</p>
中野委員	<p>私も賛成だ。例えば兵庫県は沖縄県とは友愛県だが、そういう友愛県を動かして、向こうに働きかけたりという努力はできないものか。昔、教員があまり採用できない時には、大阪府に沖縄県から結構行っている。そういう県とやりとりする努力も必要ではないか。チャレンジさせる方向で努力してはどうかと思う。また、5.4%はあまりにも小さい数字なので、先ほど質問した正規任用を増やし、一気に全国の平均に近づける努力を、知事部局と話し合って、教育長を先頭に予算確保の努力をしてほしい。</p>
教育長	<p>どこの県の一次合格者を受け入れるかは、先方の教育委員会が決めます。現在この仕組みを行っていて沖縄県を対象に入れていない県もありますので、こちらから入れてくださいというのは少しおこがましいかも、というところで微妙なところがあります。また、一次合格した優秀な人材には来年も受けてほしいという考えから、一次合格者を他県に逃がすのではなく、次の一次試験を免除した方がいいのではないかという意見もあります。他県からそういう方をとりたいという話があれば、積極的にそういう県があると周知して受ける機会を広げていきたいと思えます。いろんな意見を聞いて、受験生の皆さんが就職できるようないろんな形で支援していきたいと思えます。</p>
委員長	<p>これだけの倍率を経て合格した教員だが、数年で病気や精神疾患で休む率がとても高い。そうした教員が定数に入っていることも含めて、正規採用を増やせず、臨時的任用に頼らざるをえないという本県の状況を考えた時に、どうしたらいいのか真剣に考えなければいけないのではないか。そもそも、学力の優秀さは当然だが、精神的な強さ、厳しい今の学校現場の状況を乗り越えることができる教員をどのようにして採用するか、そして採用された教員をどのような研修で能力を高め、元気づけていくのか、また、休職した教員を復帰させるためにどうしたらいいのか、問題に耐えられる強い教員をどのように作っていくのか、それも本県の課題だと思う。だから、人数だけの問題ではなくて、採用の仕方、研修の仕方、子供達にとってより良い教育環境づくりについてみんなで議論しながら勉強しながら取り組んでほしい。</p> <p>では、千葉国体の成績について御質疑ございますか。</p>

安次嶺委員	<p>沖縄県は最下位ではなかったが45位。沖縄県より下位は、人口が沖縄県の半分ぐらいの鳥取県、高知県だ。実質的には沖縄県は最下位だと思う。なおかつ、優勝しているのは若者だけで、成年が全然振るわない。結局、高校総体に向けて強化した若者が得点を稼いでようやく下から3番目、それがなければ最下位。これは今の沖縄の社会の人々の姿を象徴的に示していると思う。というのは、沖縄県は、若者は元気でメタボリック症候群もそんなに多くないが、20歳を過ぎて30代、40代になるといきなり全国トップのメタボ県になる。つまり、我々大人が、健康的な生活もせず、病気に倒れ、スポーツもこのように大変残念な結果になっているということだ。国体で優勝したり高校総体で活躍した大勢の若者達が大人になったら順位が上がるかもしれないという希望ももてるが、逆に彼らが30代になったらメタボになって全然ダメな大人になっている可能性もある。さらにメタボリック症候群予備軍が continua 続いて来るから、とても大きな社会問題だ。だから、この全国トップクラスの若者達が本当に健康な大人になるために、子供の時から生涯にわたるスポーツ・健康教育をしっかりとやって実践しなければいけない。この際、ぜひ教育委員会でキャンペーンをしよう。将来健康な大人になるための教育こそ本当の教育だ。学力検査より、こちらの方がはるかに大きな社会問題だ。もちろん学力もあつた方がいいが、学力の陰に隠れてこういうことを問題にしない風潮はよくない。教育界から、しっかりとした認識の下に、教育しないといけないと思う。</p>
委員長	<p>私も国体に参加させてもらったので報告したい。なぎなたの女子の頑張りは見事だった。彼女達は作法等いろんな点でしっかりしているので、入場行進の練習も彼女達が全体に指導する役割で、先にレクチャーを受けみんなに教えてくれた。動きがきびきびして気合いが入っていたので良い成績を収めるだろうと思っていたが、本当に優勝してくれた。団体の部では女子の試合競技が優勝、演技競技が準優勝、競技別の総合成績も準優勝で、とても嬉しかった。各分野で頑張ってる子達は多い。それに刺激されながらみんな頑張ってくれると嬉しい。</p>
新垣委員	<p>沖縄の成年には、メタボだけでなく、企業側でスポーツする選手は大勢いる。しかし、不況の時代で企業側の配慮も厳しいところがあり、派遣できないとか練習の時間がとれないという面もやはりある。県の代表なので、ある程度企業側でも配慮してもらいたい。気兼ねしながら頑張っている選手も実際にいるので、そういう選手達に目を向けることも大事ではないかと思う。</p>
委員長	<p>国体の場合は、一般の成人も入ってくるので、企業も含め、県民みんなが応援することで、頑張りがいのある沖縄を作れるといいと思う。</p>
保体課長	<p>国体の得点について補足説明いたします。国体の点数は、夏季の本国体だ</p>

	けではなく、冬季国体のスキー、スケート等の競技も全て入っております。沖縄では冬期のメンバーが作れず、練習もできませんので、冬期が終わった時点で、例えば東北等と500～600点くらい得点差がつきます。本国体で頑張って30位前半までいければ、目標達成するのですが、冬期の分はなかなか取り返せる状況ではなく、このような状況になっています。
安次嶺委員	決定的なハンディなので、夏季だけの点数も出してほしいところだ。
保体課長	成年も頑張っておりますが、得点に繋がっていないのは、話が出たように、本県に実業団がないという事情もあります。他県はいろんな競技の実業団があり、そのチームが参加しております。本県でも一般の成年の選手が頑張っていますが、なかなか上位に入れないのが現状です。本県から実業団に行っている選手もいますが、本県には実業団のチームがほとんどなく、なかなか点数がとれません。ただ1つ、9人制バレーの徳州会が、去年優勝しています。今年はお出しでうまくいかず、5位でした。子供達もインターハイから国体まで頑張って好成績をおさめていますが、体育大等、上の学部がなく、なかなか本県で成年が頑張る環境ができていない現状があります。そういう実情があることは御理解いただきたいと思います。
委員長	実業団で唯一頑張っていた9人制バレーも、競技そのものがなくなる。
保体課長	はい、来年から国体の競技ではなくなります。
安次嶺委員	高校野球はこの点数に入らないのか。
保体課長	入りません。
委員長	スポーツの話は盛り上がる。こういう報告はやはりいい。選手が頑張ってくれるように教育委員会も一緒に頑張りましょう。 それでは、議事に入ります。本日の議題は議案が6件となっております。なお、議題3号から6号は人事案件となっておりますので、非公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 では、議案題1号の説明をお願いします。
県立課長	(議案題1号の説明) ・沖縄県立特別支援学校管理規則及び沖縄県立特別支援学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
委員長	御質疑ございますか。
鎌田委員	「〇〇の地域を除く」という規定があるが、その基準は定数との関係もあるのか。
県立課長	この規定は、以前とほとんど変わらない意味ですが、文言上の統一上、こういう表現にしております。主な変更点は、島尻特別支援学校の複数障害対

	応と、離島の規定がなかったものを追加した点です。
委員長	肢体不自由対応の施設整備は済んだのか。
県立課長	はい。
委員長	島尻特別支援学校は、現校舎を作った時に当時の校長先生の思いがあつて生徒達や先生方が使いやすい校舎を作ったと、視察の際に聞いた。障害をもった子達の教育という点で、子供達の学びやすさ、生徒達や先生方の使いやすさにすごく配慮されているのが印象的だったので、改築の時にもそういう精神が反映されてほしいと思った。それはなされているとのことなので、了解した。 では、これでよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 次に、議案題2号の説明をお願いします。
県立課長	(議案題2号の説明) ・平成23年度沖縄県立特別支援学校の幼稚部及び沖縄県立沖縄高等特別支援学校の入学定員について
委員長	御質疑ございますか。
中野委員	去年、非常にもめた美咲特別支援学校の件がある。今回は弾力的に幅を持ってやっているか。
鎌田委員	幼稚部は一学級5名が原則だが、弾力的に8名まで可能だ。仮に定数8名の3クラスで1人2人増えた場合、クラス増の覚悟があるのか。去年はそれで問題となって訂正することになった。就学前の特別支援をする子供達はかなり増えてきているので、定数枠を決めてもその範囲に収まるかどうか。土壇場になって増える可能性もなくはない。その時に、また去年のような状況にならないよう、さらに増も検討の視野にあるか。
県立課長	はい、そのために調査結果を受けて、懸念される学校で学級増としております。美咲特別支援学校はもう支障はないと思いますが、盲学校と西崎特別支援学校で、去年の美咲特別支援学校のような状況が懸念されるため、1学級ずつ増えております。
委員長	保護者の皆さんの迷いもあつたりして測りにくいところもあると思うが、必要な子供達に柔軟性をもって対応できるよう、お願いしたい。 では、このとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定いたします。 この後は人事案件になりますので、非公開です。休憩いたします。 (以下は非公開部分のため省略します)